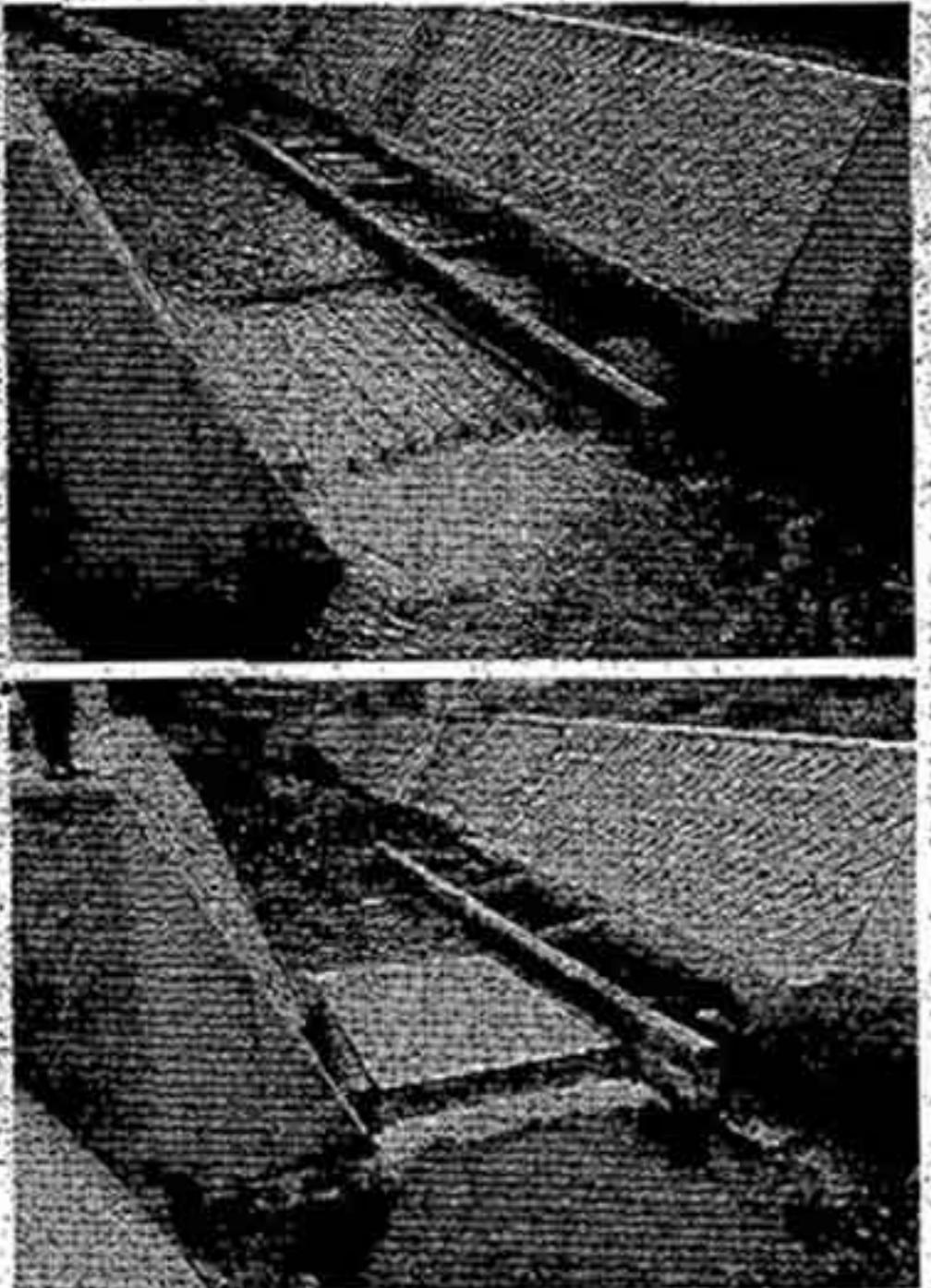


従来比30%のコスト縮減



前田設備工業
河床式除塵取水システムを提供

る。なお、設置にはある程度の落差が必要。既に国道8号敦賀バイパスの小河口周辺をはじめとする各地で採用されている。前田社長は「環境への配慮が必要な時代に、これらの省エネが可能な製品はなかなかない。農業用の散水にも利用されており、さらなる需要に期待したい」と自負を見せる。

管工事業を営む前田設備工業（敦賀市昭和町・前田政義代表取締役）が開発した「河床式除塵取水システム」がこのほど国土交通省の新技術情報提供システム（NETTIS）の認可を受けた。取水および塵芥除去に電力を用いないことで、各コストの大額な削減を実現している。

河川水を用いて消音

を行いう場合、動力ボンブで取水した後、導水管を通じて一旦取水槽に溜める。その後スクレーパーを介して塵芥を除去した水を貯水槽に溜め、それを散水するのが一般的。これに対する大半の削減を実現している。

除塵機は取水部分のVの字スリットと、一時的に水を溜める流量

ト上部で除塵本体から導水管を通じて貯水槽に溜める。塵芥は水槽に溜めるとタンバーで一時的に溜めるとともにスリッ

調整タンバーなどで構成され、流れてくる水をタンバーで一時的に溜めるとともにスリップと定められている中、の電力消費量が50kWに取られていた電力のうち取水の分がなくなり、散水能力も向上する。オールステンレス製のため、メンテナンスの手間も大幅に軽減。シーザンションコストが従来品による損傷を防いで